

文 献	対 象	デザイン・介入	評価項目	脱落例数	結 果	有害事象	エビデンスレベル	備 考
① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国)	① 年齢 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ペーシングのデータ	① RCTor非RCT(対象群 10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照(parallel) or 記録対照 ③ (研究により) 前向き or 後向き ④ 各群の例数 ⑤ 実際の方法(薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容(プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間(導入期間+試験期間)	① 主要アウトカム ② 二次的アウトカム	可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載(結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検化の評価 ④ 併用療法
①Kawashima M, et al. Br J Dermatol 148:1212-1221, 2003 ②2003 148:1212-21 ③2 ④日本	①575例 ②16歳以上 ③診断基準を満たすAD ④- 日本国内52施設	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④フェキソフェナジン201例 プラセボ199例 ⑤フェキソフェナジン60mg1日2回 ⑥プラセボ1日2回 導入7日間 比較観察7日間 ⑦導入7日間 比較観察7日間	①痒疹スコア(患者)、痒疹評価(医師) ②血液検査、尿検査、心電図	164例が導入期で脱落	フェキソフェナジンはADの痒疹に有効、安全性はプラセボと同程度	重篤な有害事象なし、対照群とも有意差なし	1	①ITTあり ②ランダム化方法の記載あり ③盲検化の記載あり ④ヒドロコルチゾン外用
①Yoshida H, et al. Ann Allergy 62: 507-512, 1989 ②1989 62: 507-512 ③3 ④日本	①284例 ②小児 ③診断基準を満たす小児AD ④- 日本国内34施設	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④ケトチフェン145例、クレマスチン139例 ⑤ケトチフェン0.8-2mg クレマスチン0.4-1mg ⑥導入3-7日間 観察4週間 ⑦-	①痒疹スコア(医師)、臨床スコア(医師) ②-	4例	ケトチフェンはクレマスチンに比較して皮膚、痒疹ともに有意に改善	重篤な有害事象なし、対照群とも有意差なし	2	①ITTなし ②ランダム化方法の記載なし ③盲検化の記載なし ④ヒドロコルチゾン軟膏、白色ワセリン
①Simons FER, et al. J Allergy Clin Immunol 104: 433-40, 1999 ②1999 104: 433-440 ③4 ④カナダ	①817例 ②12-24月 ③家族歴のあるAD ④-	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④セチリジン群399例 プラセボ群396例 ⑤セチリジン0.25mg1日2回 プラセボ1日2回 18か月 ⑥18か月 ⑦-	①安全性(患者) ②-	セチリジン群48例 プラセボ群51例	セチリジンは安全性の高い治療である 鼻炎、上気道感染、発熱などの症状がみられたが、セチリジン群とプラセボ群では有意差はなし	重篤な有害事象なし、対照群とも有意差なし	1	①ITTなし ②ランダム化方法の記載あり ③盲検化の記載なし ④-
①Munday J et al. Dermatology 205:40-5, 2002 ②2002 205: 40-45 ③5 ④イギリス、ポーランド	①155例 ②1-12歳 ③夜間痒疹のあるAD ④-	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④クロルフェニラミン75例、プラセボ76例 ⑤クロルフェニラミン1mg1日1回(1-5歳)、2mg1日1回(6-12歳) ⑥比較観察4週間 ⑦-	①痒疹スコア(患者)、臨床スコア(医師) ②-	4例	クロルフェニラミンはAD症状に有意差なし	20例であったが、重篤でない	2	①ITTなし ②ランダム化方法の記載なし ③盲検化の記載なし ④タクロリムス軟膏
①Kawakami T, et al. J Dermatol Sci 43:127-134, 2006 ②2006 43:127-34 ③6 ④日本	①20例 ②16歳以上 ③診断基準を満たすAD ④-	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④フェキソフェナジン10例 無投与10例 ⑤フェキソフェナジン60mg1日2回 ⑥比較観察7日間 ⑦-	①痒疹スコア(患者)、患者日誌(患者)、臨床スコア(医師)、痒疹評価(医師) ②血中好酸球数、IgE、ヒスタミン、トリプターゼ、IL-4、IL-5、IL-6	なし	フェキソフェナジンはADの痒疹に有効	重篤な有害事象なし、対照群とも有意差なし	2	①ITTあり ②ランダム化方法の記載あり ③盲検化の記載あり ④吉草酸ベタメタゾン外用、白色ワセリン外用
①中川秀己ら 西日本皮膚科 68; 553-565, 2006 ②2006 68: 553-565 ③7 ④日本	①190例 ②7~15歳 ③診断基準を満たすAD ④- 日本国内23施設	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④フェキソフェナジン群(Fexo群)77例、フマル酸ケトチフェン(Keto群)89例 ⑤フェキソフェナジン群では、1回30mg/日(7~11歳)、60mg/日(12~15歳)を1日2回 ⑥フマル酸ケトチフェンドライシロップ群では、1g1包/ケトチフェン含有量1mgを1日2回 ⑦導入7日間 比較観察28日間	①痒疹スコア(患者)、かゆみ日誌(患者)、臨床スコア(医師) ②-	16例が導入期で脱落	塩酸フェキソフェナジンの有効性はケトチフェンに劣ることなくアトピー性皮膚炎に伴う痒疹を改善。 安全性についても臨床問題となる有害事象が認められない。	主な有害事象は鼻咽頭炎、横眠	2	①ITTあり ②ランダム化方法の記載あり ③盲検化の記載あり ④-
①川島眞ら 臨床皮膚科 60; 661-667, 2006 ②2006 60: 661-667 ③8 ④日本	①1094例 ②15歳以上 ③診断基準を満たすAD ④- 日本国内175施設	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④塩酸オロパタシン連続投与群554例 間欠投与群550例 ⑤塩酸オロパタシン1日2回5mg ⑥導入14日間 比較観察12週間 ⑦-	①痒疹スコア(VAS、患者)、Skindex-16を用いたQOL調査(患者)、痒疹評価(医師)、臨床スコア(医師) ②-	仮登録1449例、355例が本登録で脱落	痒みVASスコアは連続投与群では間欠投与群に比べ有意に低く、痒みがより制 連続投与群で4週目、間欠投与群で6週目から有意に重症度スコアが低下。 連続投与で痒みの抑制と消失状態の持続が認められ、患者のQOLも向上。	重篤な有害事象なし、対照群とも有意差なし	1	①ITTあり ②ランダム化方法の記載あり ③盲検化の記載あり ④-
①橋爪秀夫ら アレルギーの臨床 24; 1105-1111, 2004 ②2004 24: 1105-1111 ③9 ④日本	①74例 ②15歳以上 ③診断基準を満たすAD ④-日本国内12施設	①RCT ②パラレル, ③前向き, ④- ④ロラタジン+プロピオン酸アルクロメタゾン(A群)37例 プロピオン酸アルクロメタゾン群(B群)37例 ⑤ロラタジン10mg1日1回 ⑥比較観察14日間 ⑦-	①痒疹スコア(VAS、患者)、掻破痕評価(医師) ②-	1例が脱落	ロラタジン(A群)において痒疹が有意に減少	重篤な有害事象なし、対照群とも有意差なし	2	①ITTあり ②ランダム化方法の記載なし ③盲検化の記載なし ④プロピオン酸アルクロメタゾン

